

115 カラスガイ

(イシガイ科)

兵庫県ランク:絶滅(Ex)

Cristaria plicata

環境省ランク:NT

種の概要

本州全域に分布するが、各都府県での生息地は1~数箇所しかなく、既知産地においては絶滅あるいは、それに近い状態の産地が少なくない。平野部の大河川下流域や湖沼、潟湖に生息し、琵琶湖から移入されたもの(メンカラスガイ型)は内陸の湖沼にも定着している。殻長は最大で400mmに達するものもあるが、多くは200mm程度までである。殻表面は光沢があり、成貝では黒色または緑黒色であるが、幼・若貝では黄褐色~緑褐色の淡色である。幼~若貝時は、後背縁に翼状突起があり、成貝では欠落する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○		△	△	○		○

県内分布

赤穂市

県内における生息状況及びその他特記事項

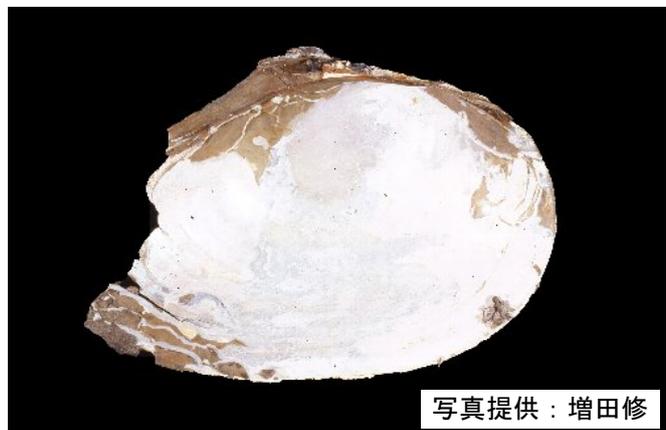
ランク変更なし。1975年に千種川水系下流部で、貝殻の破損した死貝が1個体見つかり、その後は確認できていない。県内においては内陸部のため池などでの数例の報告もあるが、確認した記録を含めて全てがドブガイ類の誤認と考えられる。したがって、兵庫県レッドリストの絶滅認定期間である40年をほぼ経過していることで、絶滅と判断する。

保護上の留意点

広い水域を生息地とするため、千種川や円山川といった大型河川が生息対象域となる。今後の生息確認は期待薄であるが、改修の際に入江やワンドといった本種の生息可能な環境を造成しておくことは、同様の環境を必要とする希少種の保全につながると考えられる。



写真提供：増田修



写真提供：増田修



【執筆者】 増田修